



北海道室蘭市立白蘭小学校 学校便り

白蘭

令和6年 10月24日 10月号 No8



ホームページは、「白蘭小学校」で検索するとすぐ見つかります。

【学校教育目標】

- ・深く学ぶ子
- ・心豊かな子
- ・健康な子
- ・未来をつくる子

音色と歌声 響かせて笑顔の花を咲かせよう

白蘭小としては最後の音楽発表会、たくさんの皆様にお越しいただき、子どもたちにたくさんの拍手をいただきました。どうもありがとうございました。子どもたちの発表前の緊張した面持ちが、どの学年も発表後には満面の笑顔に変わっていました。教職員も含めてすごく嬉しそうだった笑顔を見て、音楽発表会のテーマ「音色と歌声 響かせて笑顔の花を咲かせよう」を達成できたのではないかと思います。ご来場の皆さんにも、たくさんの笑顔が見られたことも嬉しく思っています。

今回の発表会は、どの学年もダンスやリズムに合わせた動き、斬新な発表のコンセプトや入退場の工夫等、随所にチャレンジが見られる内容でした。子どもたちは、自分の殻を一つ突き破れたのではないかと感じています。発表会に向けて粘り強く練習に取り組み、お互いの頑張りを認め合いながら、立派な姿を見せることができました。そして、会場みんなが笑顔で楽しい時間を過ごせた、大成功の音楽発表会だったと思います！



ありがとうございます！

回覧板等で地域全体にお願いしていた図書室ボランティアに、3名の方々のご協力をいただいています。先日はハロウィンに合わせて、図書室を楽しく飾り付けていただきました。子どもたちも楽しそうに飾りを眺めています。どうもありがとうございます。



日	曜	11月の主な行事
1	金	
2	土	
3	日	文化の日
4	月	振替休日
5	火	
6	水	高齢者疑似体験(5年) スケート教室(4年)
7	木	環境学習室工大・PCB(6年) フッ化物洗口 スケート教室(5年)
8	金	手話教室(4年) スケート教室(6年) 漢字検定
9	土	
10	日	
11	月	
12	火	国際理解教育出前講座(4~6年) スケート学習(3年)
13	水	英検ESG(6年)
14	木	不審者対応避難訓練 フッ化物洗口
15	金	委員会③
16	土	
17	日	
18	月	
19	火	点字教室(3年) 室蘭市地域子育てセミナー(白蘭小会場)
20	水	
21	木	本室蘭中学校新入生体験入学・保護者説明会 フッ化物洗口
22	金	クラブ反省
23	土	勤労感謝の日
24	日	
25	月	
26	火	参観日(1・5年)
27	水	参観日(2・6年)
28	木	参観日(3・4年) フッ化物洗口
29	金	
30	土	

1～4年生 遠足

9月27日に1～4年生が遠足に行きました。前日の夜から明け方まで雨により実施が危ぶまれていましたが、児童の登校時間には雨もやみ、予定通り実施することができました。

1・2年生は白鳥台の「北公園」へ、3・4年生は「風の子公園・メルタワー21」へ行きました。たくさん歩いて、目的地では楽しく遊んだり見学したりして思いっきり楽しみました。遠足を通して『集団行動を通して仲間意識を高め、自然に接することで、健康な身体と豊かな心情を育てる』というねらいにせまることができました。お弁当の準備等ご協力いただきありがとうございました。



中学校教諭 乗り入れ授業の様子

来年度の白蘭学園開校に向けて今年度から実施している中学校教諭による乗り入れ授業。6年生は『未来のわたし』をテーマに、将来の自分を思い浮かべ、イメージを膨らませながら創作活動（卒業制作）を行っています。子どもたちは、将来の自分と向き合い真剣に取り組んでいました。また、この日は室蘭米高校からインターンシップ（職業体験）の学生2名も来校しました。同じ空間の中で、中学校教諭の図工の指導を通して、様々な形でキャリア教育が進められていました。



室蘭市交通安全 人と旗の波運動

10月15日に、室蘭市交通安全『人と旗の波運動』が行われました。毎年、白蘭小学校では1・2年生が校舎前の歩道で旗を振って、車を運転している方々に安全運転を呼びかけしています。この取組をきっかけに、子どもも大人も改めて交通ルールを守ること、交通安全の大切さについて考えてほしいと思います。



後期児童委員会 認証式

10月2日に後期児童委員会の認証式を行いました。後期は、各学年が次の学年に向かう大切な時期であり、委員会の取組も前期よりもさらに充実した取組を目指していくことが期待されます。認証式では、各委員会の代表として委員長が後期の委員会で頑張りたいことを全校児童の前でしっかりと決意表明しました。委員会活動は、『学校をよりよくするために』『楽しく過ごせるようにするために』どのようなことができるのかを考え、行動に移していくことが大切です。友達の考えもしっかり受け入れながら『他者意識』をもって活動することで、学校も子どもたちも元気になる取組を進めてほしいと思います。

